

教育システム情報学会

Japanese Society for Information and Systems in Education



発行日 2004年 3月31日
発行所 教育システム情報学会
発行者 岡本敏雄
・ 661-8520 尼崎市南塚口町7-29-1
園田学園女子大学情報教育センター内
・ 06-4961-6507 FAX06-4961-6508
<http://www.jsise.org/>
E-mail: secretariat@jsise.org

ニュース・レター No.128



第29回全国大会のご案内



「e-Learningにおける新たな教育学の構築を目指して」

本年度の全国大会は、香川大学キャンパスにて開催されます。今回の大会は、「e-Learning における新たな教育学の構築を目指して」というテーマで、わが国で益々、進化しつつある e-Learning を教育工学およびその学際的な視点から理論づけをし、新しい教育学の形成に向けて挑戦していきます。講演、パネル討論、ワークショップ、各種発表セッション、展示会を企画しております。多くのご発表、ご参加をお待ちしております。

開催日時 2004年8月20日(金)15:00 ~ 8月22日(日)17:00

会場 香川大学幸町キャンパス(本部地区)
〒760-8521 香川県高松市幸町1-1

主催 教育システム情報学会

共催 香川大学

後援(予定) 文部科学省、経済産業省、総務省、香川県教育委員会、高松市教育委員会、
四国新聞社

協賛(予定) ALIC(先進学習基盤協議会)、日本教育工学会、電子情報通信学会、人工知能学会
(財)コンピュータ教育開発センター、(財)科学技術教育協会、(社)日本教育
工学振興会

大会事務局 〒761-0396 香川県高松市林町2217-20
香川大学工学部信頼性情報システム工学科
山崎研究室気付
教育システム情報学会第29回全国大会事務局

全国大会ホームページ <http://jsise2004.eng.kagawa-u.ac.jp/>



次ページへつづく

大会日程

8月20日(金) [第1日15:00より 受付14:00開始]

14:00～	受 付				
15:00～18:00	ワークショップA	ワークショップB	ワークショップC	ワークショップD	ワークショップE
18:00～	ウェルカム・パーティ				

8月21日(土) [第2日]

9:00～	受 付						
9:30～11:30	企画セッションA 「組織内教育におけるe-Learningの新しい展開」 オーガナイザ 仲林 清 (NTTレゾナント) 松居 辰則 (早稲田大学)	企画セッションB 「e-Learning 向けの動的デジタル教材の制作と配信」 オーガナイザ 磯本征雄 (岐阜聖徳大学) 野崎浩成 (愛知教育大学)	企画セッションC 「学習モデルの再考と知的学習支援システム」 オーガナイザ 小西達裕 (静岡大学) 伊藤紘二 (東京理科大学)	A1:一般講演	A2:一般講演	A3:一般講演	企業展示会
11:40～12:30	理事会						
12:30～13:00	総 会						
13:00～14:00	特別講演「教育の構造改革」(仮題) 講師:(依頼中)						
14:15～16:05	パネル討論会 「高等教育とe-Learning」 モデレータ:電気通信大学大学院教授 岡本敏雄(本学会長)						
16:15～18:15	B1:一般講演	B2:一般講演	B3:一般講演	B4:一般講演	B5:一般講演	B6:一般講演	ポスター/デモセッション
18:30～20:30	懇親会						

8月22日(日) [第3日]

9:00～	受 付						
9:30～11:30	企画セッションD 「インターネット・インターネットによる学習環境の展開」 オーガナイザ 米澤宣義 (工学院大学) 佐々木 整 (拓殖大学)	企画セッションE 「高等教育におけるICT利用システム—遠隔教育、生涯教育を含む—」 オーガナイザ 黒瀬能幸 (近畿大学) 渡辺成良 (電気通信大学)	企画セッションF 「情報科教育法の実践と評価」 オーガナイザ 松永公廣 (摂南大学) 西野和典 (九州工業大学)	C1:一般講演	C2:一般講演	C3:一般講演	ポスター/デモセッション 企業展示会
11:30～13:00	昼 食						
13:00～15:00	D1:一般講演	D2:一般講演	D3:一般講演	D4:一般講演	D5:一般講演	D6:一般講演	ポスター/デモセッション
15:10～17:00	パネル討論会 教科「情報」- 初等教育から高等教育における先進的な実践事例に学ぶ - モデレータ:富山大学助教授 黒田 卓						

- 大会参加費 ●参加費等 7,000円 (事前申込の場合は、6,000円)
(注)参加費等には、参加費1,000円、論文集6,000円(事前申込は、5,000円)を含みます。
●論文掲載費 1,000円 (論文1編につき。企画セッション、一般講演、ポスター・デモセッションでの発表を対象とします。)
- 懇親会費 6,000円 (事前申込み 5,000円)
- 発表・参加申込
発表申込締切 2004年6月18日(金)
発表原稿提出締切 2004年7月 9日(金)
事前参加申込締切 2004年8月 6日(金)
- *発表者のお申込は、別紙記載の「研究発表申込書」をご参照し、下記の全国大会ホームページからお申し込みください。なお、4月末から全国大会ホームページで発表・参加申込み受付を開始します。

大会事務局 〒761-0396 香川県高松市林町 2217-20
香川大学工学部信頼性情報システム工学科 山崎研究室気付
教育システム情報学会第29回全国大会事務局
e-mail info@jsise2004.eng.kagawa-u.ac.jp

(ご注意) 大会事務局の住所は、大会会場の住所とは異なります。論文原稿の送付先はこちらの住所です。

全国大会ホームページ <http://jsise2004.eng.kagawa-u.ac.jp/>
4月中旬より順次、全国大会情報や発表・参加申込み方法を掲載します。

JSiSE2004 第 29 回全国大会



研究発表

{ 企画セッション 一般講演 }

第 29 回全国大会において、企画セッション・一般講演の研究発表募集をしています。

企画セッションは、A～F の 6 テーマに分かれています。一般講演においては、幅広い分野別から発表申込を募っています。

= = 企画セッションテーマ = =

- A : 組織内教育における e-Learning の新しい展開
- B : e-Learning 向け動的デジタル教材の制作と配信
- C : 学習モデルの再考と知的学習支援システム
- D : インターネット新技術による学習環境の展開
- E : 高等教育における ICT 利用システム—遠隔教育, 生涯教育を含む—
- F : 情報科教育法の実践と評価

* 4 月末から全国大会ホームページで発表申込受付を開始します。

<http://jsise2004.eng.kagawa-u.ac.jp/>

締 め 切 り : 6 月 1 8 日 (金)

大会事務局 〒761-0396 香川県高松市林町 2217-20

香川大学工学部信頼性情報システム工学科 山崎研究室気付

教育システム情報学会第 29 回全国大会事務局

e-mail info@jsise2004.eng.kagawa-u.ac.jp

研究発表申込書

発表形態

- | | |
|---|---|
| ☐ 一般講演 | ☐ 英語セッション |
| ☐ ポスターセッション | ☐ デモセッション(注 1) |
| ☐ 企画セッションA
組織内教育における e-Learning の新しい展開 | ☐ 企画セッション B
e-Learning 向け動的デジタル教材の制作と配信 |
| ☐ 企画セッション C
学習モデルの再考と知的学習支援システム | ☐ 企画セッション D
インターネット新技術による学習環境の展開 |
| ☐ 企画セッション E
高等教育における ICT 利用システム—遠隔教育、生涯教育を含む— | ☐ 企画セッション F
情報科教育法の実践と評価 |

【企画セッションについて】

企画セッションは、一般の会員の皆様から発表を募集しています。奮ってご応募ください。ただし、都合によっては、一般発表に回っていただく場合もありますのでご了承ください。

(注1)他のセッションで発表されなくても単独に発表することができます。また、企画セッションや一般講演で発表される方が、同じテーマの内容をポスター/デモセッションで発表することもできます。その場合、別々にお申込みください。

発表タイトル

要旨(200 字程度)

分野キーワード:

() e-ラーニング () 生体・知覚情報 () 認知・メタ認知 () 協調学習 () 情報倫理
 該当するものを、適切な順に()内に番号をつけ3つまで選んでください。
 () バーチャルコミュニティ () コラボレーション () 学習コンテンツ () プログラミング教育 () 知的学習支援
 () 情報教育 () 教育実践システム () 知的インタフェース () 教育方法・評価 () インターネット利用
 () Web 利用 () 語学教育 () マルチメディア利用 () 教育実践・評価 () 企業内教育
 該当するものがない場合は、その他に記入してください。
 () ネットワークシミュレーション () その他 ()

発表者名

お名前	ふりがな	所属

* 連名でご発表の場合は、口頭発表者にチェックをつけてください。なお、発表者のうち 1 名は本学会会員でなければなりません。(当日までにご入会ください。)

連絡先

宛先	
住所	〒
Tel.	
Fax.	
e-mail	

* 発表申込みは、上記の申込書の内容をご参照し、下記の全国大会ホームページからお申し込みください。

なお、発表論文原稿は、全国大会事務局(香川大学)へお送りください。

研究発表申込み

全国大会ホームページ <http://jsise2004.eng.kagawa-u.ac.jp/> よりお申し込みください。
 4月末より順次、全国大会情報や発表・参加申込み方法を掲載します。
 発表申込〆切: 2004年6月18日(金)

発表論文提出先

〒761-0396 高松市林町 2217-20
 香川大学工学部信頼性情報システム工学科 山崎研究室気付
 教育システム情報学会 第 29 回全国大会事務局
 e-mail info@jsise2004.eng.kagawa-u.ac.jp
 発表原稿提出〆切: 2004年7月9日(金)



会員の皆様へ

平成16年度学会論文賞候補をご推薦ください。

2004 年 4 月

今年度の論文賞の候補を推薦してください。これは、学会誌に発表された論文等のうちから、優秀なものを表彰する制度（学会論文賞）です。今回対象となる推薦候補論文は、【**原著論文（ショートノート含む）**】です。

なお、ご推薦いただいた論文は論文賞選定委員会において評価の査読を議論し、理事会で決定していくことになります。表彰は今年度の総会の席です。

推薦投票の要領

今回対象となる推薦論文は次のとおりです。

【原著論文】

Vol.19, No.1（2002 年）から Vol.20, No.4（2003 年）に掲載された 2 年間の論文。

この中から、推薦したいと思われる論文 1 編を投票方法に従ってご投票ください。

投票方法

上述した期間に掲載された**原著論文（ショートノート含む）**の中から、推薦したいと思うものをメールで 1）～ 4）に従って「**paper-award04@jsise.org**」へご投票ください。

- | | |
|----------|---------------------|
| 1) 推薦論文名 | 2) 掲載論文誌の Vol., No. |
| 3) 推薦理由 | 4) 推薦者名（会員に限る） |

投票締切 平成 16 年 5 月 15 日（土） メールのみで受付けます。

第 5 回 e ラーニング技術特別委員会 シンポジウム開催のお知らせ

テーマ：「データで読み解く e ラーニング最新動向」

e ラーニング技術特別委員会

委員長：小松 秀圀

e ラーニング技術特別委員会では「第 5 回 e ラーニング技術特別委員会 シンポジウム」を以下の通り開催致します。

ープログラムー

協賛：産業能率大学

開催日時：2004 年 4 月 26 日（月）

場 所：産能大学 代官山キャンパス

〒153-0042 東京都目黒区青葉台 1-4-4 電話 03-3476-3330

地図 URL：<http://www.sanno.ac.jp/map/daikanyama.html>

■シンポジウムテーマ

「データで読み解く e ラーニング最新動向」

全体司会者：日本工業大学・情報工学科 助教授 丹羽次郎

PART 1 講演

14:00～15:45

「高等教育における e ラーニング」～アメリカの実態と日本の課題～

講演：メディア教育開発センター 教授 吉田 文

司会：e ラーニング技術特別委員会 委員長 小松秀圀（NTT ラーニングシステムズ（株））

PART 2 シンポジウム

16:00～18:00

「データで読み解く e ラーニング最新動向」～ベンダ、ユーザ、品質の調査結果から～

パネリスト：NTT レゾナント株式会社 E ラーニング部 コンサルティング部門 担当部長 木山 稔

先進学習基盤協議会：事務局長 伊藤健二

産業能率大学：産業能率大学 HRM 研究センター 平田謙次

モデレータ：岩手県立大学 教授 鈴木克明

参加費：教育システム情報学会 会員 無料

申込書送先：小松秀圀（NTT ラーニングシステムズ株式会社） E-mail：komatu@hot.nttls.co.jp

2004 年度第 1 回研究会 開催のお知らせ

テーマ：『組織内教育における e-Learning の新しい展開』

担当：研究会委員会
松居辰則 / 仲林 清

e-Learning は単なる Web による教材配信の段階から、企業や大学で実践的に活用されるための複合的な教育研修メディアに変化しつつあります。本研究会では、このような流れに着目し、e-Learning を組織内教育で活用するための、新しい取り組み事例や方法論についての研究発表を募りたいと思います。具体的には、学習コンテンツ、ブレンディッド学習、学習システムの設計方法論や実践事例、Human Resource Management、Knowledge Management、Job Aid など、e-Learning の新しい分野との連携事例などをとりあげ、多角的に議論したいと考えております。企業のみならず高等教育、初等中等教育からもユニークなアイデア、先進的な実践等、ご披露いただきたいと考えております。その他、教育システムに関する広い分野からの発表も歓迎致します。是非、広い分野からの多くの方々の発表をお待ちしております。

- 開催 日：2004 年 5 月 28 日（金）9:00～18:00
- 開催 場所：青山学院大学（渋谷）総研ビル 11 階 19 会議室
- 発表申込締切：2004 年 4 月 20 日（火） 延長しました！！
- 原稿提出締切：2004 年 5 月 7 日（金） 延長しました！！

原稿は A4 用紙で 2 枚以上の 8 枚以下の偶数枚でご準備いただきますが、パワーポイントを出力したもので構いません。

発表原稿は「研究会資料」として製本し配布されます。

- 発表申込方法
（１）発表タイトル、（２）著者名・所属（登壇者に○）、（３）発表概要（50 文字程度）、
（４）連絡先住所・氏名・電話番号・電子メールアドレス、を電子メールで幹事の松居（早稲田大学）（matsui-t@waseda.jp）までお送りください。形式は任意で結構です。

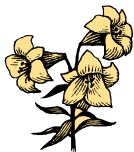
- お問合せ先

研究会幹事：松居辰則

〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15
早稲田大学 人間科学部 人間情報科学科
Tel. & Fax. 04-2947-6924
E-mail: matsui-t@waseda.jp



教育システム情報学会関西支部 20 周年記念行事



関西支部長 高橋 参吉

関西支部は、本年度末に創設 20 年を迎えます。20 年を振り返り、新たな支部活動を模索すべく下記のような講演をはじめとする記念行事を企画いたしました。会員の皆様のご参加をお願いします。

記

1. 講演・発表会

日 時：2004 年 5 月 29 日（土）13：00～17：00 （受付 12：30）

場 所：大阪国際会議場（グランドキューブ大阪）12F 1202 号室

13：00 支部長挨拶

13：10～14：40 講演

特別講演 教育システム情報学会関西支部顧問 元支部長
大阪電気通信大学教授 石桁 正士先生

招待講演 教育システム情報学会会長
電気通信大学大学院教授 岡本 敏雄先生

休憩（20 分）

15：00～17：00 発表 「教育，研究，活動を振り返って」

（発表予定者）

磯本 征雄先生（岐阜聖徳学園大学）

田中 邦宏先生（大阪府立工業高等専門学校）

松永 公廣先生（摂南大学）

田中 規久雄先生（大阪大学）

稲葉 晶子先生（大阪大学）

2. 記念パーティ：

場 所：大阪国際会議場（グランドキューブ大阪）12F グラントック

日 時：2004 年 5 月 29 日（土）17：30～19：30 （受付 17：00）

会 費：3000 円

講演・発表会については、無料で事前の申し込みはありませんが、記念パーティについては、定員に限りがありますので、参加申し込み（5 月 20 日締め切り）を横山までお願いします。なにか問合せがあれば、実行委員長 工藤までお願いします。

工藤 英男（大阪成蹊大学）
横山 宏（大阪電気通信大学）

E-mail: info@kudohweb.com
E-mail: yokoyama@isc.osakac.ac.jp

教育システム情報学会中国支部

第 4 回研究発表会研究発表の募集

中国支部 支部長 宮地 功

中国支部では 2004 年 7 月 10 日(土)に総会を開催し、その後に下記の通りに研究発表会を行います。つきましては、中国支部の方はもとより、他地区の方にも参加していただきたく、広く会員の方々に教育システム情報に関連した研究についての研究発表を下記の要領で募集します。

多くの方々に是非ご参加をお願いします。

研究発表会 日 時： 2004 年 7 月 10 日(土) 13:40～17:00
会 場： 倉敷芸術科学大学 2 号館 4 F 2404 教室

発表申込締切：2004 年 6 月 11 日(金)

発表申込方法：宮地宛(miyaji@mis.ous.ac.jp)に下記の項目を記載して送ってください。

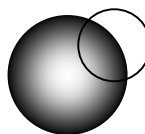
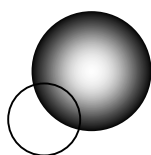
(1)発表題名，(2)著者名(登壇者に○)，(3)所属，(4)連絡先住所，氏名，電話番号，電子メール，
(5)その他，発表に関する要望，(6)中国支部懇親会への参加・不参加

原稿提出締切： 2004 年 6 月 25 日(金)

送 付 先：〒700-0005 岡山市 理大町 1-1
岡山理科大学総合情報学部情報科学科 宮地 功

原稿形式：A 4 用紙 2～6 頁．用紙の上下左右に 20mm ずつの余白を取る．2 段組で 1 頁 40 行程度とする．論文題名，著者名，所属，論文概要，キーワード，はしがき，本文，むすび，参考文献の順に書く．

その他は，教育システム情報学会研究会原稿作成に準ずる．
(投稿は Email の添付ファイルでも可)



教育システム情報学会 企画委員会シンポジウム

『情報化時代に対応した大学入試と能力評価』

企画委員会

1. 開催の主旨

情報技術の進展は教育・学習のパラダイムを大きく変えようとしている。特に、初等中等教育における知識伝達・知識獲得型の教育・学習から知識創造・知識構築型の教育・学習への能力観・評価観の変化である。そして、これらの能力の育成・評価を実現するための様々な研究・開発・実践が行われている。では、高等教育、特に大学進学時においてこれらの能力はどのように測定され評価されるべきなのか。またその方法論にはどのようなものがあるのか。このシンポジウムでは大学入試に焦点を当て、情報化時代における新しい能力観・評価観に基づく学力・能力をどのように測定し評価するのかを理論・実践・技術、そして大学、資格試験、高校の多角的な観点から議論を行う。

2. 開催日時

2004年8月2日(月) 10:00～18:00

3. 会場

聖心女子大学内 宮代ホール(東京都渋谷区広尾)
【地下鉄 日比谷線 広尾駅 徒歩3分】

4. 内容

10:00～ 受付

10:30～10:45 会長挨拶

11:00～13:00 基調講演

(1)『IT技術を用いた新しい試験方式への展望』

池田 央(教育測定研究所)

(2)『新しい学力評価と能力評価の理論』

依頼中

- 昼休み -

14:15～18:00 パネル討論会：情報化時代に対応した大学入試と能力評価

司会：松居辰則(早稲田大学)、西野和典(九州工業大学)

話題提供：

・センター試験

(1)『情報関連科目は何を測ったのか?』

植野真臣(長岡技術科学大学)

・特徴ある大学入試

(2)『プレゼンテーション入試の実施と効果』

永野和男(聖心女子大学)

(3)『AO入試のその後』

対馬勝英(大阪電気通信大学)

・資格検定

(4)『デジタルコミュニケーション検定における実技評価』

中村直人(千葉工業大学)

・大学入試(2次試験)に「情報」を実施する大学

(5)『「情報」科目の入試のターゲットと方法論』

辰己丈夫(東京農工大学)

・インターネット利用(e-learning, インターネット入試)の支援技術

(6)『e-Testingにおける諸問題』

吉川 厚(NTTデータ)

・実施大学での対応について

(7)『入試業務のナレッジ・マネジメント』

梅本勝博(北陸先端科学技術大学院大学)

・高等学校での対応について

(8)『高等学校では何を教えどう対応するのか』

山上通恵(兵庫県神戸市北高等学校)

2004 年度第 2 回研究会 発表募集のお知らせ

テーマ：『e-Learning 向け動的デジタル教材の制作と配信』

担当：研究会委員会
磯本征雄 / 植野真臣 / 野崎浩成

2004 年度 第 2 回研究会では、研究発表を募集しております。

下記のようなテーマ設定になっておりますが、e-Learning に関連する研究発表を幅広く募集しますので、奮ってご参加の程、宜しく申し上げます。

なお、発表をご希望の方は、「発表申込フォーム」を野崎宛に、Email にて、ご送付をお願いします。（担当：磯本征雄（岐阜聖徳大）、植野真臣（長岡技科大）、野崎浩成（愛教大））

テーマ：「e-Learning 向け動的デジタル教材の制作と配信」

開 催 日：2004 年 7 月 24 日（土）

開 催 場 所：長岡技術科学大学

発表申込締切：2004 年 5 月 15 日（土）

原稿提出締切：2004 年 6 月 19 日（土）

発表申込連絡先：野崎浩成（愛知教育大学教育学部）

〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1

愛知教育大学教育学部

Tel.0566-26-2609 Fax.0566-26-2510

E-mail : nozaki@aecc.aichi-edu.ac.jp

--- 00 --- 00 --- 00 --- 00 --- 00 --- 00 --- 00 --- 00 --- 00 ---

第 2 回研究会【発表申込フォーム】

- ・発表タイトル：
- ・著 者・所 属：
- ・発表概要（数行程度）：
- ・著者連絡先（住所，Tel，Fax，Email 等）：

--- 00 --- 00 --- 00 --- 00 --- 00 --- 00 --- 00 --- 00 --- 00 ---

新年度（2004 年度）の会費請求をしています。

4 月から新年度（2004 年度）が始まりました。新年度会費を同封の請求書のとおり、ご請求をさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

学会の諸活動は、会員のみなさまからの会費で単年度予算で運営しておりますので、納入にご協力をお願いいたします。また、不明な点についてはまことにお手数ですが、事務局へメールでお問い合わせくだされば幸いです。

■ 問い合わせ

教育システム情報学会事務局

〒661-8620 尼崎市南塚口町 7-29-1

E-mail : secretariat@jsise.org

園田学園女子大学情報教育センター内

同封の振込用紙をご利用ください。

教育システム情報学会 英文論文誌 論文募集 (Vol.3, No.1, 2004 年発行)

教育システム情報学会では、2002 年度から年 1 回定期的に英文論文誌を発行しています。今までに Vol.1, Vol.2 を発行いたしました。質・量ともに「教育と情報通信技術」に関する世界レベルの内容になりました。是非、多くの方々にご投稿いただき、革新的な研究成果、ユニークな実践等を世界に向けて積極的に発信していただきたいと思います。

下記の要領で、Vol.3, No.1 への掲載論文を募集いたします。多くの皆様からの投稿をお待ち申し上げております。

- 論文種別：原著論文 (Original Paper), 実践論文 (Practical Paper)
- 投稿締切：2004 年 5 月末日 (投稿は随時受け付けておりますが、この期日までに投稿をいただいたものに関しては Vol.3, No.1 への掲載の対象となります)
- 原稿執筆要領：下記の執筆要領に従って原稿を作成してください。
- 投稿の手続き
 - ・論文は他学会において査読中でないこと。そしてその主要部分が未発表であること。但し、国際会議、学会の大会、研究会等で口頭発表したものをまとめたものは投稿することができる。
 - ・投稿者は本学会員である必要はないが、本学会員である場合には投稿料に会員の価格が適用される。投稿者が 2 名以上の連名の場合は、そのうち少なくとも 1 名が会員になれば投稿料に会員価格が適用される。
- 投稿原稿の執筆要領
 - ・原稿の構成：標題、著者名、概要、本文、参考文献、付録の順序とする。原稿は刷り上りイメージ (Vol.1 または Vol.2 を参照) になるべく近い形で作成し、図・表も本文中に含めること。
 - ・記述言語：英語のみ
 - ・著者名：氏名と所属を書く。
 - ・Abstract：150 words 以内でつける。また、その下にキーワードを 5 つ程度書く。
 - ・本文：章・節・項、等の見出しをつけて読み易くし、それぞれ「1.」...、「1.1」...、「(1)」...、「(2)」...、「(a)」...、「(b)」...の順に区別する。
 - ・参考 (引用) 文献：記述内容に直接関連のある文献は、主文中における該当箇所の肩上の () 内に番号を示す。
(例) (1) Rockart, J. F. and Morton, M.S.S. : “Computers and the Learning Process in Higher Education”, McGraw Hill, New York (1975)。
 - ・制限枚数：原稿は A4 判の用紙を使用し、10pt の Times フォントを基本として縦 24cm、横 18cm の範囲に 2 段組みの書式で、刷り上がりイメージにできるだけ近い状態で印刷して投稿のこと。刷り上がりページ数は、原則として図表を含めて 8 頁以内とする。
 - ・提出物：オリジナル原稿を PDF 形式にしたものを電子メールに添付して JSiSE 英文論文誌事務局 (jsise-e@fest.or.jp) へ送付する (ファイルサイズが 1M バイト未満)、またはダウンロードできるようにする。その他のファイル形式や提出方法を希望される場合はお問い合わせください。
 - ・その他：学術用語は文部省の規定があればそれに従うこと。また、学会名、およびその略称は学会指定のものがあればそれに従うこと。

- 問合せ先 (事務局が移転しました！！)

JSiSE 英文誌編集事務局

〒116-0012 東京都新宿区南元町 23 番地

公立共済四谷ビル 5F (財) 科学技術教育協会内

Tel: 03-5367-9511 Fax: 03-3357-2727

E-mail: jsise-e@fest.or.jp

国際会議の案内

国際会議は、教育システム情報学会の会員のみなさんからの紹介やインターネット上で流れている CFP 情報をもとに編集されています。会員のみなさんに紹介したい国際会議などがありましたら、下記までご連絡下さい。また、実際に国際会議に参加されたレポートなどを送っていただければ今後の国際会議の案内作成の際に大変参考になりますので、そちらのほうもお待ちしております。

新着情報 1 件

AH 2004: International Conference on Adaptive Hypermedia and Adaptive Web-Based Systems
開催日程：2004 年 8 月 23-26 日
開催地：Eindhoven University of Technology, Netherlands
論文応募締切：2004 年 3 月 29 日
URL: <http://www.ah2004.org/home.html>
e-mail: ah2004@win.tue.nl

国際会議案内文責 松田 憲幸（和歌山大学）
E-mail: matsuda@sys.wakayama-u.ac.jp

再掲載情報 3 件

ICCE 2004: International Conference on Computers in Education
開催日程：2004 年 11 月 30-12 月 3 日
主催：Asia-Pacific Society for Computers in Education (APSCE)
開催地：Melbourne Exhibition Centre, Melbourne, Australia
論文応募締切：2004 年 4 月 15 日
URL: <http://www.icms.com.au/icce2004/>
e-mail: icce2004@rmit.edu.au

ISWC 2004: International Semantic Web Conference
開催日程：2004 年 11 月 7-11 日
主催：人工知能学会, The Semantic Web Science Association
開催地：広島プリンスホテル
論文応募締切：2004 年 4 月 13 日
URL: <http://iswc2004.semanticweb.org/>

E-Learn 2004: World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, & Higher Education
開催日程：2004 年 11 月 1-5 日
主催：AACE
開催地：Washington, DC, USA
論文応募締切：2004 年 4 月 30 日
URL: <http://www.aace.org/conf/default.htm>
e-mail: conf@aace.org

新入会員の紹介

● 新入会員（敬称略）

JSiSE-A0402086 松尾徳朗
JSiSE-A0402087 山本孝一
JSiSE-A0402088 山本由美子
JSiSE-A0402089 塚原 渉
JSiSE-A0402090 八木龍平
JSiSE-A0402091 國宗永佳
JSiSE-A0402092 江本理恵
JSiSE-A0402093 外川明子
JSiSE-A0402094 小菅貴彦
JSiSE-A0402095 大川晃一
JSiSE-A0402096 濱本 隆
JSiSE-A0402097 村上陽子
JSiSE-A0402098 北村弘一
JSiSE-A0402099 畑田敏雄

名古屋工業大学
浜松学院大学
浜松学院大学
電気通信大学
北陸先端科学技術大学院大学
信州大学
先進学習基盤協議会事務局
学校法人電子学園日本電子専門学校
学校法人電子学園日本電子専門学校
学校法人電子学園日本電子専門学校
近畿大学大学院
慶応義塾大学 SFC 研究所
（有）ひょうラーニングプロダクツ
（株）ジェック

準会員
正会員
正会員
正会員
準会員
正会員
正会員
正会員
正会員
正会員
準会員
正会員
正会員
正会員

2004 年度新入会員（2004 年 1 月 26 日～2004 年 4 月 1 日）

第 27 回情報化学討論会

主催 日本化学会 情報化学部会

共催 日本薬学会, 日本農芸化学会, 日本分析化学会, 日本コンピュータ化学会

協賛 教育システム情報学会

会期 平成 16 年 11 月 30 日 (火)・12 月 1 日 (水)

会場 つくば国際会議場 (つくば市竹園 2-20-3) <http://www.epochal.or.jp/>

交通 つくばバスセンターより徒歩 10 分 (つくばセンターまでは東京駅、羽田空港、成田空港等からのバス (1 時間程) が便利)

発表申込締切 7 月 16 日 (金)

予稿原稿締切 9 月 24 日 (金)

参加登録予約申込締切 10 月 29 日 (金)

討論主題

- (1) 化学情報学 (化学論理学, 情報検索、DB, コンピュータネットワーク, CG, グラフ理論, 反応設計など)
- (2) 理論化学・計算化学 (MO, MM, MD, MC, 各種シミュレーションなど)
- (3) ケモメトリックス及びそのソフトウェア (ニューラルネットワーク, ファジィ, カオス, 遺伝的アルゴリズム, 構造物性相関, データマイニングなど)
- (4) 化学教育・学習システム
- (5) その他情報化学に関するもの (コンビナトリアル・ケミストリー, 遺伝情報、環境ホルモン情報など)

発表形式 口頭 (講演 25 分または 15 分, 討論 5 分を含む), またはポスター (構造活性相関シンポジウムと合同)

特別講演 (仮題)

「データマイニング・その発展と今後の展望」(阪大産研) 鷲尾 隆

「siRNA や miRNA に基づく創薬」(東大、産総研) 多比良 和誠

予稿原稿 A4 版用紙を使用し, 本文 (和文または英文) は 2 または 4 頁。英文要旨は半頁。

参加登録費 (構造活性相関シンポジウムにも参加できます (含要旨集))

[一般] 予約 8,000 円 (部会員 7,000 円), 当日 9,000 円 (部会員 8,000 円)

[学生] 予約 3,000 円 (部会員 2,000 円), 当日 4,000 円 (部会員 3,000 円)

要旨集前送希望の場合は郵送料 1,000 円を別途申し受けます。費用振込み後, 参加取り消しによる返金には応じられません。

懇親会 (構造活性相関シンポジウムと合同)

日時: 11 月 30 日 (火) 18:30-

場所: 同会議場内多目的ホール (予定)

会費: [一般] 予約 6,000 円, 当日 8,000 円 [学生] 予約 3000 円, 当日 4000 円

各種申し込み方法

発表申込, 参加登録, 予稿原稿執筆要項及び送金方法などの詳細は

<http://www.slis.tsukuba.ac.jp/cicsj27/>に掲載します。

連絡先 〒305-8550

茨城県つくば市春日 1-2 筑波大学 知的コミュニティ基盤研究センター 中山伸一

電話 (029)859-1342 FAX (029)859-1342

E-mail: cicsj-27@slis.tsukuba.ac.jp

2003 年度第 5 回研究会の報告

テーマ：グループコミュニケーションによる学習を支援するシステム

研究会委員会
担当：米澤宣義 佐々木整

去る 2004 年 1 月 31 日に工学院大学新宿校舎で 2003 年度第 5 回研究会「グループコミュニケーションによる学習を支援するシステム」を開催しました。研究報告数は 8 件、参加者は 20 数名でした。発表時間 20 分、質疑応答を 10 分として、10 時 25 分より 16 時まで研究会を実施しましたが、中途退室者はほとんどなく、熱心な発表に活発な討論が加わり、有意義な研究会を開催できたことをご報告いたします。

研究報告は、8 件の内 6 件が自発的な申し込みであったので、JSISE の広報活動が少しずつ効いてきているのではないかと思います。2 件は発表依頼をしました。その内の 1 件は非会員でしたが、発表していただき、研究会終了後に入会を勧誘し成功しました。

今回の研究会は原稿締め切りが正月明けでしたので集まるのかどうか心配していましたが、遅れる者もなくなんなら問題もなく準備できました。皆様のご協力に感謝いたします。

- ・開催日：2004 年 1 月 31 日
- ・場 所：工学院大学

1. Flash Communication Server MX と XML を利用
したプレゼンテーションシステムの設計
米澤宣義, 新藤康正, 藤田暁彦 (工学院
大学)

次に示す設計要因を満足する e-learning システムを模索している。(1) 遠隔講義機能、(2) 見栄えのよい教材が安く作成できる、(3) 教材を管理しやすい、(4) 混乱なく教材を掲示できる、(5) テキストメッセージの交換と音声配信で教師と複数の学習者が互いに同一教材をポインタで指示しながら効率のよいコミュニケーションが可能、(6) グループ学習のためのグループ化機能、(7) 予習と復習が可能、(8) 個人が安価にシステムを作成でき必要に応じて手を加えることができる。ここでは、(2) のオーサリング環境を持つ Flash MX と(5) や(6) に必要な通信機能を持つ Flash Communication Server MX が e-learning システム構築ツールとして利用できるかどうかを検討するためプロトタイプを試作しているので報告する。

2. 内部エージェントの存在を考慮したコミュニケーションのモデル化

It happens very often that a person's behavior cannot be allowed by others even if they talk something to do with and make their decisions in advance. It is very important to be aware of the existence of misunderstandings or misapprehensions in communication.

This paper states that a communication model is proposed by using the concepts of various agents and that the model depends mainly on the process obtaining the decision among five agents. And this paper also states that the concept of hierarchical structure useful for communication can be derived from the tetra-hedron structural way of thinking.

3. 同期対面授業を支援し、学生による強調的問題
作成を可能にする WBT の開発と実践
田中 充, 高木正則, 勅使河原可海 (創
価大学)

我々は、授業の改善を目指して、PC教室での同期対面型授業を支援するWebベーススライド同期ツール、学生による協調学習の問題作成が可能なWebベースのオンラインテストシステム、そしてWebベースアンケートシステムを開発し、それらを大学授業において用いてきた。本稿では、開発した一連のシステムの概要と、それらを用いた授業の実践報告を行い、今後の改善点について整理する。

4. KNOPPIX を利用したユビキタス実習環境 小菅貴彦, 外川明子 (日本電子専門学校)

2003年12月1日より、CDから起動可能なLinuxであるKNOPPIXを利用して、インターネットに接続されているパーソナルコンピュータさえあれば、いつでも、どこからでも、学内の実習室とほぼ同じ環境で、プログラミング言語実習を行うことができるユビキタス実習環境の運用を開始した。本論文では、ユビキタス実習環境の背景、運用開始後の実績および教育的効果について報告をおこなう。

5. SCCS IntraSite - 常時進化する学園イントラサイトの構築と実践 - 田村浩一郎 (中京大学)

大学を、教職員と学生によって形成されるコミュニティとしてとらえ、その研究・教育活動の基盤となるウェブサイト—SCCS IntraSite—を構築した。このサイトはグループウェアとしての側面を持つが、大きなねらいは、教育コミュニティにおいて有効なサイトとはどのようなものであるべきか、その姿を実践を通じて探ることにある。3年の実使用を経ているが、このシステムは常時進化している。システムの概要と使用実績について報告し、さらに、今後の情報処理パラダイムの革新の方向について論じる。

6. デジタルポートフォリオを利用したプロジェクト学習支援環境の提案 小林智子, 海尻賢二 (信州大学)

協調学習を行う場合、これまでは電子掲示板などを利用して議論を行うことが多かったが、プロジェクト学習などのように、学習者が学習の成果を Web上に公開し、それに基づいて議論を行うような場合、議論の対象となる発表ページと議論の場が離れてしまい、どのページについての意見を述べているか指し示すのが難しい。本研究では、公開された個々のページを中心に、それぞれのページに対してコメントを付ける形で議論を進めていくような環境を構築した。このシステムでは、学習者はサーバ上に用意された自分のスペースにブラウザ上から簡単な操作でページを作成することができ、公開したページに対しては教員や他の学習者からのコメントをもらうことができる。プロジェクト学習に基づく協調学習を取り入れた大学の情報リテラシー教育で運用を行い、その可能性とどのような機能が必要とされているかを検討した。

7. Web システムを利用したユビキタス協調学習の展望 畦地真太郎 (朝日大学)

ユビキタスな協調学習は、1) ユビキタスを可能にした技術的進歩、2) 学級内モデルを超えた効果的な学習の要請、3) 少子化を背景とした“きめ細

やかな教育”への要請、の3点により、今後の発展が期待されている。本稿では、第1にユビキタスを可能とする技術を概括し、現実の教育場面に適用可能なのはWebベースのシステムであることを示す。第2に、Webベースのコミュニティ向け知識循環システムであるパブリック・オピニオン・チャンネル (Public Opinion Channel: POC) の概念を提示し、それを利用した協調学習のモデルを示す。最後に、Webを利用したアウェアネス提供システムの構築と運用を紹介し、「いつでもどこでも」教員と学生が“つながっている”ことができるユビキタスな学習空間についての展望を示す。

8. シミュレーションを素材とした講義「システム設計」の設計と評価 松永公廣, 松永ちとせ (摂南大学)

情報社会の進展に伴い文科系大学でも実社会を想定した問題解決教育として「システム設計」の講義を実施するようになってきている。システム設計は、システム設計の基礎知識、プログラミングツール、プログラミングの技術、システム設計演習が複雑に絡み合うため学習者には難しいと感じさせる講義内容である。初期には筆者らも想像以上の困難さを感じたが、知識理解のための電子問題集の導入、興味を持続できるように分かりやすい教科書の選択、興味を引く設計対象の選択、教育方法の改善などの工夫を行って一定の成果を上げることができている。これらの成果を基にしてより効果的な授業へと進展させるためにさらにネットワークの適切な活用と学習者の思考しやすい学習環境の構想と実践評価を行う時期に来ている。そこでこれまでの試行の評価をおこない効果的な授業実践の課題と構想について述べる。



研究報告書のお求めは

研究報告書購入ご希望の方は、日本学会事務センター事業部・海外部(学協会刊行物頒布業務)まで、TEL (03-5814-5811), FAX (03-5814-5822) Eメール (sub@bcasj.or.jp) でお申し込みください。1部 1,300 円(送料共)です。残部切れの際はご容赦ください。

なお、JSiSE 会員で「研究報告」の年間購読(購読料は送料込みで年間 4,000 円)をご希望の方は JSiSE 事務局 TEL (06-4961-6507), Eメール (secretariat@jsise.org) までご連絡ください(年間6回)。この際、ぜひ購読されますようおすすめいたします(教育システム情報学会研究会委員会担当/伊藤紘二)。